

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2009年3月23日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム「このゆびと一まれ」
所在地 (電話番号)	南九州市知覧町永里4577番地2 (電話) 0993-83-1015

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(21年 2月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(2月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小田代記念クリニック、川辺生協病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には広々として芝の整えられた庭があり、ゲートボールやグランドゴルフで地域住民に開放され、地域の方々との交流の場となっている。建物は広い共用空間があり落ち着いた雰囲気、日中は利用者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、支えあいながら楽しく過ごすことができるよう取り組んでいる。隣接した高齢者施設の職員とも連携して、利用者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。管理者・職員は意欲的にケアの質向上に取り組んでおり、明るい雰囲気を作り出している。協力医療機関との連携も図られており、利用者家族の安心感も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合わせ、計画的に前進している。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、地域代表、民生委員、老人クラブ会長、市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りを努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合いを行い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の催事に積極的に参加しており、近隣の中学校、保育所等との交流を図っている。庭をゲートボール場として開放しており地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割が意識できるように職員が話し合い作り上げた理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、日々のミーティングにおいて復唱、研修し理念の具体的な実践について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催事に積極的に参加しており、近隣の中学校、保育所等との交流を図っている。庭をゲートボール場として開放しており地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合わせ、計画的に前進している。評価結果は誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域代表、民生委員、老人クラブ会長、市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に2, 3回市担当窓口などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、定期的に書面をもって報告しており、金銭管理は、訪問時に個々にあわせた報告がなされている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合いを行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、お別れ会を行うなど利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会が行われ、施設外研修については職員に紹介し、受講費用を事業所が負担するなどの配慮がなされている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。ただ、段階的な研修体系が整っているとは言いがたい。	○	職員の質の向上のための指針や計画の策定の取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、日常的に他のホームの職員・利用者との交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。また、急な入居時には、家族に馴染むまでは、頻繁に面会していただくようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜を職員と利用者が一緒に栽培したり、料理の下ごしらえをする中で共に過ごす関係を築いている。体を動かすラジオ体操や日用品づくりも頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、申し送りノートなどで職員間で共有している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医とは連絡ノートを作成し、丁寧な連絡が取られており、本人や家族の希望を踏まえ介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価を月1回行い、ケア会議も毎月行われているが、評価結果やケア会議で話し合われた内容が計画の見直しに反映されているとは言い難い。	○	モニタリングやケア会議で話し合われた内容を介護計画の見直しに反映させる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外出・外泊支援、買い物代行を行っており、家族宿泊時は食事を提供できる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされ、受診時は連絡ノートを活用するなど確実な情報伝達に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本を見ながら食事の希望を聞いたり食欲を引き出す工夫をしたりしている。また旬の食材を利用し、食事の下ごしらえや配膳を能力に応じてしてもらい、和やかな雰囲気を作っている。職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し気持ちよく清潔を保つようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための畑作業・家事や趣味(日用品づくり等)を楽しんだり、お手伝いをするなどでそれぞれの役割を見出し参加する喜びを感じている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて、畑の手入れ、買い物、散歩など日常的に屋外に出るよう支援している。 また、月に2、3回のドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練が行われ、消防関係者の協力を得ている。ただ、夜間を想定した避難訓練や、非常時の備蓄は十分とはいえない。	○	職員数の少ない夜間想定避難訓練の実施と、非常時の食料等の備蓄の管理を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は個人別の記録に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握されている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花や貼り絵が飾られ、食堂やベランダには思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。食堂は日差しが差し込み明るく、台所の料理の様子が感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真をはじめ、テレビや趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。また家族の写真がホームで提供され、利用者が自宅でくつろいでいるような気持ちにさせる配慮がなされている。		